



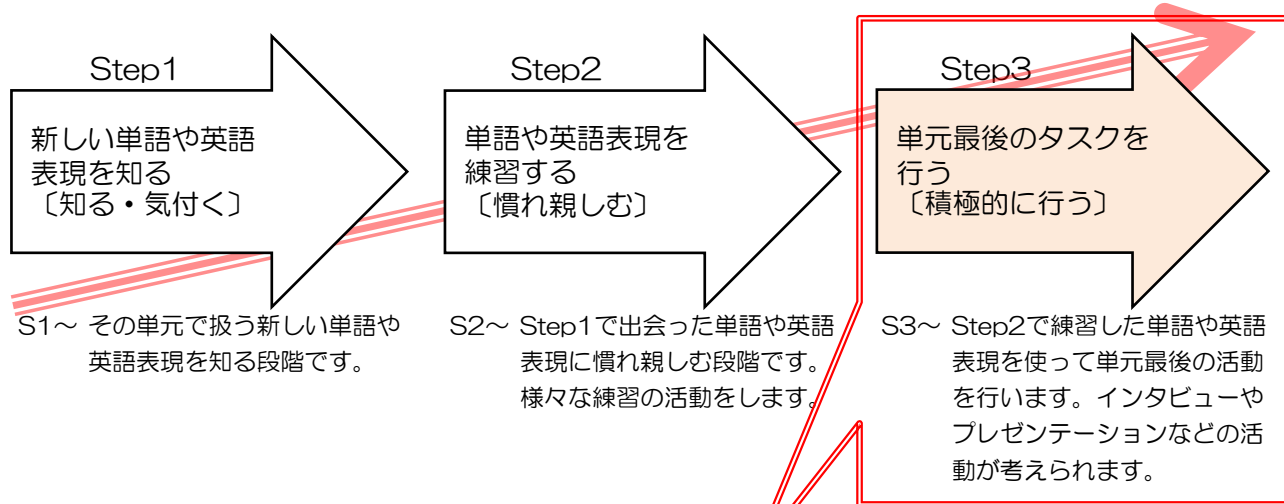
ー単元最後のタスク（コミュニケーション活動）を充実させるー

各段階のポイント、最終回は「単語最後のタスク活動（コミュニケーション活動）を充実させること」です。

前段階で十分に慣れ親しんだ英語表現を使って行う、単元最後のタスク活動（コミュニケーション活動）の充実です。

「基本の3ステップ」を再確認した上で、「単元をどう仕上げるか」を考えてみましょう。

単元全体の考え方（基本の3ステップ）



タスク（コミュニケーション活動）をどう考えるか

外国語活動の目標が「単に英語を話す（口にする）ことではない」理由がここにあります。

Step2の活動自体にはアイデアもあり、どんなにいい活動をしていても、「それで終わり」ではとても残念です。単元最後のコミュニケーション活動では、意味のある内容を積極的に伝え合う、そんな姿を期待したいものです。

新学習指導要領においても、5・6年生外国語、3・4年生外国語活動ともに、「話すこと[やりとり]・話すこと[発表]」という領域があります。音声によるコミュニケーション活動を大切にする部分は変わらないのです。

さて、Hi, friends! を見ると、各レッスンの“Activity”として設定されているのがこのタスクに当たります。これについて指導編には、「慣れ親しんだ表現などを使って、児童が友だちとコミュニケーションを図ることをねらいとする」とあります。この“Activity”に向かって、どんなステップを踏みながら到達させるかを考えることが、外国語活動において「単元の構想をたてること」だといえます。私が指導する際にはこのことを念頭に、まず最後のコミュニケーション活動をイメージしてから、そこに至らせる道筋を考えます。ここの発想の仕方・構想の立て方は様々だと思いますが、私にはこの考え方が合っているようです。

最後に、指導にだんだん慣れてきたら、単元の“Activity”の「発展型」を考えてみてはいかがでしょうか。昨年度も紹介した「破」のコミュニケーション活動です。その「発展型（例）」を紹介して終わります。

京都大会に見る Hi, friends! の発展型（第13回全国小学校英語活動実践研究大会京都大会の指導案より）

- 京都市立大宅小学校
 - ▶ “What would you like?” 「Student City in Oyake を開催しよう」（Hi, friends! 1 Lesson9 参照）
 - ▶ “Turn right” 「京都案内をしよう ～おこしやす京都～」 （Hi, friends! 2 Lesson4 参照）
- 京都市立東山泉小学校
 - ▶ “What would you like?” 「素敵なお店体験をしよう」（Hi, friends! 1 Lesson9 参照）
- 京都市立大藪小学校
 - ▶ “What would you like?” 「Oyabu Village を開催しよう」（Hi, friends! 1 Lesson9 参照）
 - ▶ “Let’s go to Italy.” 「友達を旅行にさそおう」（Hi, friends! 2 Lesson5 参照）＊タイトル上は一緒に
- 京都市立久世西小学校
 - ▶ “What would you like?” 「Student City in Kuzenishi を開催しよう」（Hi, friends! 1 Lesson9 参照）
 - ▶ “Let’s go to Kyoto city.” 「京都案内をしよう」（Hi, friends! 2 Lesson4,5 参照）

